

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090200177	
法人名	株式会社 ニチイ学館	
事業所名	ニチイケアセンター松本筑摩	
所在地	長野県松本市筑摩2丁目33番22号	
自己評価作成日	平成23年12月19日	評価結果市町村受理日 平成24年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部	
所在地	長野県松本市巾上13-6	
訪問調査日	平成24年1月30日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居の方1人ひとりが、その人らしく毎日の生活を送り、安全に楽しく過ごして頂けるようサービスの提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム ニチイのほぼえみ松本筑摩はヘルスケア事業、医療関連事業、教育事業を全国展開されている「(株)ニチイ学館」を母体に持ち、先に開所されている通所介護施設(デイサービス)を通して地域のニーズを受け「デイ」に隣接して設置されている。ホームは住宅街に囲まれた場所にあり、まちの中での暮らし(地域や自然に触れ合いながら、町の人々行き来しながら)の実現が確保された好環境の中にある。福祉の専門性を携えた管理者は熱い思いを持って地域の方々に認知症への理解の浸透を願い、地域に開かれたホームを目指し努力を重ねている。職員とともにケアの現場に立ち入居者に寄り添い、豊かな人間関係を保ち支えあう暮らしとケアに向け職員指導にあたられている。入居者は職員の温かい目や優しい言葉掛けにより、思いやりが芽生えてきたことを伺った。入居者は明るく、ゆったりと、穏やかに過されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1F)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(2F)			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館の経営理念を会議などで定期的に唱和を行い、その理念に基づいたホームの目標を立て、その目標に向け業務に努めている。	母体法人の経営理念を活用し、ホーム独自のケア目標をたて具体化した内容で明示されている。タイムカードの上に掲示して、職員一人ひとりが出勤時に確認して、意識を持ってケアの実践に当たられている。なお管理者は会議の折々に理念に基づく日々の方針や目標を職員に伝え話し合い、共有を図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントなどに参加し地域の方との交流を行っている。又散歩や外出の機会を多く作りその際ご近所の方と交流を図っている。	地域の行事(ヨガ教室等)に入居者と共に積極的に参加されている。なお夏祭り(盆踊り・ぼんぼん祭り・バーベキュー等)に地域の方々を招待して入居者や事業所との交流に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援方法を行事の参加や交流により、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で状況報告したことに対する意見を活かし、ホームでの話し合いを行いサービスのさらなる向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催し、入居者、ご家族、町会長、民生委員、提携医師、提携訪問看護ステーション看護師、包括支援センター等、幅広い立場の方々の参加を得て開催されている。入居者の現状報告や参加者より意見、質問、要望を受け、双方向的な会議が行われている。現在災害対策について継続検討が行われている。	入居者の高齢化に伴う身体機能低下を予測した時に、災害時等の有事においてはホーム職員のみの対応には限界がある。地域住民やボランティアの協力体制の構築が望まれる。災害のおりに入居者の名簿を救援体制に加えていただく等により安全と安心が得られる支援体制に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連絡を日頃から取り、情報の交換や相談など協力関係を築くよう努めている。	入居者の認定調査の折りに管理者、ケアマネが対応して情報提供が行われている。運営推進会議のおりには包括支援センター職員が参加して、意見交換が行われている。	

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に会議などで研修会を行い職員全員が身体拘束について理解を深め身体拘束を行わないケアに努めている。	研修等により職員が身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解し、職員同士注意し合い、拘束のないケアに努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会の機械を作り、虐待についての理解を深め、虐待のないサービス又日々の業務の中で虐待が見過ごされることがないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者いないため、日常支援事業、成年後見制度について今後勉強会の機会を持ち、今後活用できるよう取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、十分な説明を行い質問なども受け安心し納得して契約が行われるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見、要望を聞ける環境作りや場を作るよう努めている。又運営推進会議にても意見交換の場を持ち、運営の向上につながるよう努めている。	運営推進会議の折に家族会を同日開催して、ご家族が思いや意見が表出しやすい場面づくりに配慮されている。なおご家族がホームへ面会時には管理者、ケアマネが近況を伝えるとともに、意見や要望を伺い運営に反映されている。	都合によりホームへの訪問が少ないご家族などに、毎月のホーム請求書発送時に入居者の暮らしぶりやその人らしい生き生きとした姿が見られた場面等を手紙や写真等を添付して伝える取り組みにより、ご家族の安心に繋がるよう期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や日常的に職員から意見や提案を聞き反映できるよう努めている。また職員が意見などをいいやす環境作りをしている。	管理者は日常的に職員とともに現場に携り、現場職員の意見や提案の表出を受け、良好な運営に向け努力をされている。なお必要時には職員との面接が行われていることを伺った。	個人面接により職員の様々な状況や思い、意見等を周囲に気兼ねなく述べることのできる環境づくりが望まれる。

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ制度、個人面談の実施や日頃の会話の中で各自が向上心を持って働くよう現場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に開かれる研修会や講義の参加を促している。又職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングしていくことを進め、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会の参加により同業者との交流を深め、意見交換をすることによりサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを図りその会話の中から本人が感じている不安や意見を聞き入れ安心をするための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の見学、事前の面談等家族との話し合いの時間を多く持ち、その中から不安や要望に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況又家族からの要望を聞きながら、その時必要としているサービスであれば、他のサービス利用を提案している。		

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの様子をみてできるところはできるだけやって頂き、協力し合い共に暮らしていくための関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会に来られるような環境・関係を作りをし、面会に来られた際は家族と本人の時間を大切にして頂けるよう環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ本人と関わる多くの方に面会に来て頂けるような環境づくりを行い、必要に応じて家族に外出の相談を行っている。	入居者一人ひとりの生活暦に関する情報を、入居者やご家族等から伺っており、入居者が今まで関わりを持って過ってきた多くの方々(友人・知人等)が面会に来られている事を伺った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で入居者の方一人ひとりが協力しあって生活が行えるよう、コミュニケーションの援助を行い、その中で関係づくりができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了後も家族からの相談等があればこれまでの関係性を大切にし援助をおこなっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向をコミュニケーションの中から把握し、困難な場合は定期的な会議で話し合いを行い検討している。	職員は入居者と過す時間をとおして、入居者の思いや意向を見極め把握に努められている。入居者が言葉では十分な意思表示ができない場合であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチして、希望や思いの把握に努め支援をされている。なおユニット会議や全大会で話し合い検討をされている。	入居者一人ひとりが日頃それとなく発せられる「つぶやき」を「つぶやきノート」に書き留め思いや意向の把握に繋がるような取り組みに期待する。

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの話、又本人昔の話、思い出などを聞き、センター方式の記録を行い、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活状況、心身の状態を記録にし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の課題について定期的にカンファレンスを行い、関係者からの意見やアイディアを反映させた介護計画書を作成している。	入居者の状態像や生活暦を基に、ご家族の思いや希望を把握して職員全員でカンファレンスやモニタリングを行い、一人ひとりの特徴を捉えた具体的な介護計画が作成されている。3ヶ月ごとの見直しと、必要時にはユニットごとに職員全員で話し合い現状に即した計画の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの様子を日々介護記録へ記入し職員間で情報を共有しながら、介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時に生まれるニーズを、1つの考えに捉われず、色々な意見を聞くことにより、柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が地域の中で安全で楽しく暮らしを送ることのできるよう支援している。		

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	入居者、ご家族が希望されているかかりつけ医にて受診が行われている。基本的には通院介助はご家族対応となっており、事前に入居者の状態を電話にて連絡をされている。しかしご家族が都合が悪い場合には管理者、ケアマネが必要書類を持って適切な医療受診ができるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月4回の訪問看護により入居者一人ひとりの、体調や状態の変化など情報交換を行い、適切な受診、看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は病院関係者との情報交換や相談に努めている。又そうした場合に備えて病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族との話し合いの中で方針を共有し、関係者と共に本人や家族が望む終末期の生活を送れるよう支援に取り組んでいる。	終末期の指針が定められており、入居者、ご家族の意向を確認し、早期からの話し合いの機会をつくり、関係者全体の方針の統一を図り入居者やご家族が安心と納得した終末期を送られるよう具体的な対応に向け検討されている。	終末期のあり方は入居者やご家族の不安の一つである。今後ホームで対応し得る最大の支援方法を踏まえ、職員間で話し合い意思の統一を図り、連携体制作りに取組まれるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変や事故発生時に備えて講習会、訓練を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。地域の方との情報交換を行うことにより、地域との協力体制を築いている。	昼夜を想定した年2回の避難訓練が実施されている。丸の内消防署(庄内出張所)署員による指導の下、消火・避難・通報等の訓練が行われ、結果への意見をいただいている。なお訓練時には地区町会長が地域に呼び掛けていただき、地域との協力体制が築かれつつあることを伺った。災時に備え3日間分の備蓄を用意されている。地震マニュアルについても検討されている。	ホームは2階建てであり職員のみでの誘導の限界を具体的に確認し、日々より地域住民や警察署、消防署との連携を図りながら、さらなる具体的な協力体制が得られるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう、声のかけかたを選び対応をしている。	入社時に接遇研修が行われている。なお定期的に行われている職員会議の折りに管理者より一人ひとりの尊重とプライバシーを損ねない言葉かけの徹底に向けた指導が行われている。職員は日常の関わりの中でお互いに注意をし合うよう心がけていることを伺った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことのできるような声かけや、促しを行い自己決定できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、その日一日を希望に添ってその人らしい生活が送れるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が身だしなみやおしゃれに対しての意欲がなくならないような声かけや環境つくりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好みや力を活かしながら、食事を楽しく、役割を持って頂けるよう支援を行っている。	食事に関する一連の作業(調理の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、トレーの配膳、食事の後片付け、食器洗い等)を楽しみながら行っている。なお食事の折りには軽音楽の流れる中職員と共に、彩り良く配膳された食事を完食されている。なお食事形態(刻み食等)に配慮し、支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調の状態や習慣に応じ、一日に必要な栄養バランス、水分量が確保できるよう努めている。		

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの実施し、口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりトイレでの排泄が行えるよう、その方に合ったトイレ誘導、声かけなどの支援を行っている。	介護日誌より入居者一人ひとりの状況を把握して声掛けや誘導等により排泄の自立に向けた支援が行われている。なお日頃からヨーグルトなどの摂取や下剤等を利用してスムーズな排便コントロールに向け支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、バランスの摂れた食事や水分の摂取に努め、毎日の運動の機会により便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの体調や希望に合わせ、個々に添つた支援を行い、入浴の時間を楽しんで頂けるよう努めている。	週2~3回の入浴支援が行われている。職員と会話をしながら一人ひとりの状態に合わせた支援が行われ、入浴を楽しめていることを伺った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や状況に合わせた休息ができ、安心して気持ちよく眠れるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を全職員が理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や習慣を活かした役割を見つけ張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方に協力をしてもらしながら、本人の希望に添って外出の機会が持てるよう支援を行っている。	暖かな日には入居者の希望に沿った散歩が行われている。(散歩コース、筑摩神社社務所、花の法祥苑等)またお弁当を持っての松本城での花見や県の森での紅葉狩り等にご家族や地域住民の協力を得て外出を楽しめている。	入居者の高齢化に伴う身体状況の低下により職員のみでの対応が限界である。地域や社協に呼び掛け散歩ボランティア等による安全な散歩支援が実現できるよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理を行っているが、希望があればお金を使えるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や友人などに連絡や手紙のやり取りができるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節に合わせて模様替えを行い、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激がなく居心地よく過ごせるよう努めている。	ホールに適した照明や適度な室温と湿度に配慮されている。(各所に濡れたタオルをハンガーに掛ける等)またホールには入居者が制作した大きな季節感が得られる貼り絵や折り紙作品を飾られ、また廊下には思い出の行事写真を掲示して楽しめている。調理場からは家庭的な食材の匂いが漂い居心地良く過せる共用空間となっている。	

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思に過ごせるような居場所の工夫をしている	その方が一日の中で1人になれたり、仲間との時間を過ごしたりと思い思に過ごせるよう、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人や家族と相談を行い、使い慣れたものや馴染みのあるものを置き、今まで住み慣れた環境に近い空間で居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居室には入居者一人ひとりの使い慣れた調度品や思い出の品(タンス・椅子・テレビ・家族写真・位牌など)を持込まれ思い思の形態に配置して居心地の良く過せるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの力を活かし、出来ることやわかることを安全に行え、自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館の経営理念を会議などで定期的に唱和を行い、その理念に基づいたホームの目標を立て、その目標に向け業務に努めている。	母体法人の経営理念を活用し、ホーム独自のケア目標をたて具体化した内容で明示されている。タイムカードの上に掲示して、職員一人ひとりが出勤時に確認して、意識を持ってケアの実践に当たられている。なお管理者は会議の折々に理念に基づく日々の方針や目標を職員に伝え話し合い、共有を図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントなどに参加し地域の方との交流を行っている。又散歩や外出の機会を多く作りその際ご近所の方と交流を図っている。	地域の行事(ヨガ教室等)に入居者と共に積極的に参加されている。なお夏祭り(盆踊り・ぼんぼん祭り・バーベキュー等)に地域の方々を招待して入居者や事業所との交流に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援方法行事の参加や交流により、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で状況報告したことに対する意見を活かし、ホームでの話し合いを行いサービスのさらなる向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催し、入居者、ご家族、町会長、民生委員、提携医師、提携訪問看護ステーション看護師、包括支援センター等、幅広い立場の方々の参加を得て開催されている。入居者の現状報告や参加者より意見、質問、要望を受け、双方向的な会議が行われている。現在災害対策について継続検討が行われている。	入居者の高齢化に伴う身体機能低下を予測した時に、災害時等の有事においてはホーム職員のみの対応には限界がある。地域住民やボランティアの協力体制の構築が望まれる。災害のおりに入居者の名簿を救援体制に加えていただく等により安全と安心が得られる支援体制に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、担当行政との関係を密にし、協力関係を築けるよう努めている。	入居者の認定調査の折りに管理者、ケアマネが対応して情報提供が行われている。運営推進会議のおりには包括支援センター職員が参加して、意見交換が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に会議などで研修会を行い職員全員が身体拘束について理解を深め身体拘束を行わないケアに努めている。	研修等により職員が身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解し、職員同士注意し合い、拘束のないケアに努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会の機械を作り、虐待についての理解を深め、虐待のないサービス又日々の業務の中で虐待が見過ごされることがないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者いないため、日常支援事業、成年後見制度について今後勉強会の機会を持ち、今後活用できるよう取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又はや改定等の際は、十分な説明を行い質問なども受け安心し納得して契約が行われるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見、要望を聞ける環境作りや場を作るよう努めている。又運営推進会議にても意見交換の場を持ち、運営の向上につながるよう努めている。	運営推進会議の折に家族会を同日開催して、ご家族が思いや意見が表出しやすい場面づくりに配慮されている。なおご家族がホームへ面会時には管理者、ケアマネが近況を伝えるとともに、意見や要望を伺い運営に反映されている。	都合によりホームへの訪問が少ないご家族などに、毎月のホーム請求書発送時に入居者の暮らしぶりやその人らしい生き生きとした姿が見られた場面等を手紙や写真等を添付して伝える取り組みにより、ご家族の安心に繋がるよう期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や日常的にも職員から意見や提案を聞き反映できるよう努めている。また職員が意見などをいいやす環境作りをしている。	管理者は日常的に職員とともに現場に携り、現場職員の意見や提案の表出を受け、良好な運営に向け努力をされている。なお必要時には職員との面接が行われていることを伺った。	個人面接により職員の様々な状況や思い、意見等を周囲に気兼ねなく述べることのできる環境づくりが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップ制度、個人面談の実施や日頃の会話の中で各自が向上心持って働けるよう現場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に開かれる研修会や講義の参加を促している。又職員一人ひとりの力量を把握し、働きながらトレーニングしていくことを進め、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会の参加により同業者との交流を深め、意見交換をすることによりサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを図りその会話の中から本人が感じている不安や意見を聞き入れ安心をするための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の見学、事前の面談等家族との話し合いの時間を多く持ち、その中から不安や要望に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況又家族からの要望を聞きながら、その時必要としているサービスであれば、他のサービス利用を提案している。		

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力を生活していく中で發揮していただき、共同生活を共に過ごす立場としての関係が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも面会に来られるような環境・関係を作りをし、面会に来られた際は家族と本人の時間を大切にして頂けるよう環境づくりに努めている。また家族が気軽に相談できる雰囲気と家族に情報提供を逐次伝え、ご本人の状況が共有できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ本人と関わる多くの方に面会に来て頂けるような環境づくりを行い、必要に応じて家族に外出の相談を行っている。	入居者一人ひとりの生活暦に関する情報を、入居者やご家族等から伺っており、入居者が今まで関わりを持って過されてきた多くの方々(友人・知人等)が面会に来られている事を伺った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の性格や考え方を知り、お互いが支えあって生活できるような環境を作れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも必要に応じて相談に対応できるよう努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや望む暮らし方をコミュニケーションや今までの生活の中から汲み取り、把握に努め、会議等を利用し、スタッフ間の統一を図るよう努めている	職員は入居者と過す時間をとおして、入居者の思いや意向を見極め把握に努められている。入居者が言葉では十分な意思表示ができない場合であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチして、希望や思いの把握に努め支援をされている。なおユニット会議や全大会で話し合い検討をされている。	入居者一人ひとりが日頃それとなく発せられる「つぶやき」を「つぶやきノート」に書き留め思いや意向の把握に繋がるような取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの話、又本人昔の話、思い出などを聞き、センター方式の記録を行い、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活状況、心身の状態を記録にし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開催し、それぞれの関係者の情報や意見を踏まえ、モニタリングを行い介護計画書に反映させている。	入居者の状態像や生活暦を基に、ご家族の思いや希望を把握して職員全員でカンファレンスやモニタリングを行い、一人ひとりの特徴を捉えた具体的な介護計画が作成されている。3ヶ月ごとの見直しと、必要時にはユニットごとに職員全員で話し合い現状に即した計画の作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や一日の過ごし方など細かく介護記録として記録することにより、その方を把握する為の情報をスタッフ間で共有し、日々のケアや「介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時に生まれるニーズを、1つの考えに捉われず、色々な意見を聞くことにより、柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が地域の中で安全で楽しく暮らしを送ることのできるよう支援している。		

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得した医療が受けられるよう常に相談しながら支援し、かかりつけ医と事業所の関係もよりよいものとなるよう努めている。	入居者、ご家族が希望されているかかりつけ医にて受診が行われている。基本的には通院介助はご家族対応となっており、事前に入居者の状態を電話にて連絡をされている。しかしご家族が都合が悪い場合には管理者、ケアマネが必要書類を持って適切な医療受診ができるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護の関わりにより、日々の健康に関する相談や情報交換に努め、適切な受診や看護を受けられるよう支援する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリの提出を行う、退院時にはカンファレンスへの参加など病院関係者との連絡を密にとり、相談や情報の交換を行い、利用者がスムーズに元の生活に戻れるよう支援する。また日頃から病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意向や方針について早い段階より共有し、話し合いを行い、望む終末期が送れる環境が作れるように支援する。	終末期の指針が定められており、入居者、ご家族の意向を確認し、早期からの話し合いの機会をつくり、関係者全体の方針の統一を図り入居者やご家族が安心と納得した終末期を送られるよう具体的な対応に向け検討されている。	終末期のあり方は入居者やご家族の不安の一つである。今後ホームで対応し得る最大の支援方法を踏まえ、職員間で話し合い意思の統一を図り、連携体制作りに取組まれるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変や事故発生時に備えて講習会、訓練を行い実践力を身に付けていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。地域の方との情報交換を行うことにより、地域との協力体制を築いている。	昼夜を想定した年2回の避難訓練が実施されている。丸の内消防署(庄内出張所)署員による指導の下、消火・避難・通報等の訓練が行われ、結果への意見をいただいている。なお訓練時には地区町会長が地域に呼び掛けていただき、地域との協力体制が築かれつつあることを伺った。災時に備え3日間分の備蓄を用意されている。地震マニュアルについても検討されている。	ホームは2階建てであり職員のみでの誘導の限界を具体的に確認し、日頃より地域住民や警察署、消防署との連携を図りながら、さらなる具体的な協力体制が得られるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の思いや生きてきた歴史や人格などを尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	入社時に接遇研修が行われている。なお定期的に行われている職員会議の折りに管理者より一人ひとりの尊重とプライバシーを損ねない言葉かけの徹底に向けた指導が行われている。職員は日常の関わりの中でお互いに注意をし合うよう心がけていることを伺った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表すことのできるような声掛けや、促しを行い自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、その日一日を希望に添ってその人らしい生活が送れるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の趣味を引きだし、その人らしい身だしなみやおしゃれができ、満足できるような声かけや環境つくりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な部分を生かして、調理から片付けまでの過程にそれぞれが出来ることで役割を持って参加し、楽しいものになるよう支援する。	食事に関する一連の作業(調理の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、トレーの配膳、食事の後片付け、食器洗い等)を楽しみながら行っている。なお食事の折りには軽音楽の流れる中職員と共に、彩り良く配膳された食事を完食されている。なお食事形態(刻み食等)に配慮し、支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体調の状態や習慣に応じ、一日に必要な栄養バランス、水分量が確保できるように努めている。		

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの実施し、口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、その人に合わせた声掛け、誘導、介助を行い、自立に向けた支援を行っている。	介護日誌より入居者一人ひとりの状況を把握して声掛けや誘導等により排泄の自立に向けた支援が行われている。なお日頃からヨーグルトなどの摂取や下剤等を利用してスムーズな排便コントロールに向け支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事、必要な水分摂取、適度な運動を行い、自然排便に努めているが、必要に応じ、薬の使用も考慮している。。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの体調や希望に合わせ、個々に添った支援を行い、入浴の時間を楽しんで頂けるよう努めている。	週2~3回の入浴支援が行われている。職員と会話をしながら一人ひとりの状態に合わせた支援が行われ、入浴を楽しめていることを伺った。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や状況に合わせた休息ができ、安心して気持ちよく眠れるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を全職員が理解し、指示通りに内服できるよう支援し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や習慣を活かした役割を見つけ張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力をしてもらながら、本人の希望に添って外出の機会が持てるよう支援を行っている。	暖かな日には入居者の希望に沿った散歩が行われている。(散歩コース、筑摩神社社務所、花の法祥苑等)またお弁当を持っての松本城での花見や県の森での紅葉狩り等にご家族や地域住民の協力を得て外出を楽しめている。	入居者の高齢化に伴う身体状況の低下により職員のみでの対応が限界である。地域や社協に呼び掛け散歩ボランティア等による安全な散歩支援が実現できるよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理を行っているが、希望があればお金を使えるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や友人などに連絡や手紙のやり取りができるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時の季節に合わせて模様替えを行い、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激がなく居心地よく過ごせるよう努めている。	ホールに適した照明や適度な室温と湿度に配慮されている。(各所に濡れたタオルをハンガーに掛ける等)またホールには入居者が制作した大きな季節感が得られる貼り絵や折り紙作品を飾られ、また廊下には思い出の行事写真を掲示して楽しまれている。調理場からは家庭的な食材の匂いが漂い居心地良く過せる共用空間となっている。	

外部評価結果(ニチイケアセンター松本筑摩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思に過ごせるような居場所の工夫をしている	その方が一日の中で1人になれたり、仲間との時間を過ごしたりと思い思に過ごせるよう、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人や家族と相談を行い、使い慣れたものや馴染みのあるものを置き、今まで住み慣れた環境に近い空間で居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	居室には入居者一人ひとりの使い慣れた調度品や思い出の品(タンス・椅子・テレビ・家族写真・位牌など)を持込まれ思い思の形態に配置して居心地の良く過せるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの「できること」「わかること」を引き出す支援を行い、その力を活かした安全かつ出来るだけ自立した生活が継続できるよう努めている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	スタッフ一人ひとりの意見、思いが統一した連携プレーとして十分サービスに反映できていない。	スタッフ間の信頼関係を築くことにより質の高いサービスが提供できる。	定期的な個人面談や会議により、スタッフの意見や提案の聞く機会を設け、その意見を反映させることにより、統一したサービスを提供する。	12ヶ月
2	49	開所間もない施設である為、知名度が低く地域との交流が十分に行なわれていない。	お客様一人ひとりが地域の一員として生活を送ることができる。	・地域や行政の協力を得て施設を知ってもらう機会を作る。 ・町会の会議や福祉広場へのピーアール ・ボランティアの受け入れ	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。
目標達成計画